

令和5年2月27日

日本鍼灸理療専門学校
日本柔道整復専門学校
校長 櫻井 康司 殿

学校関係者評価委員会
委員長 成瀬 秀夫

学校関係者評価報告書（令和3年度分）

令和3年度の学校運営、教育活動等に係る学校関係者評価につきまして、下記のとおり評価結果を報告いたします。

記

1. 学校関係者評価委員

(1) 臨床関係

坂井 友実（東京有明医療大学附属鍼灸センター センター長）
金森 篤子（金森接骨院 院長）

(2) 卒業生、同窓会関係

副委員長 木戸 正雄（日本鍼灸理療専門学校同窓会 会長）
根本 恒夫（日本柔道整復専門学校同窓会 会長）

(3) 有識者

委員長 成瀬 秀夫（東京有明医療大学副学長、保健医療学部長）

2. 学校関係者評価委員活動状況

- ・令和4年12月から令和5年1月
各委員が資料（自己評価報告書やその他資料）を基に評価並び意見を各委員が提出
- ・令和5年2月14日
各委員の意見を集約した資料等を基に、学校関係者評価委員会を開催し、評価を集約
- ・令和5年2月下旬
委員長及び副委員長を中心とし、集約した評価を基に評価報告書を作成

3. 学校関係者評価内容

別紙のとおり

以上

【学校関係者評価報告】

◆【基準1】 教育理念・目的・育成人材像

- ・創立より60年以上に亘り、教育理念、人材育成像が一貫して継承されており、その理念に則った人材を斯界に多く輩出してきたことは評価できる。今後もその理念に則り、学生教育に取り組んでほしい。また、情報の取捨選択をし、必要な情報を掘り下げていく力を育てることに注力してほしい。
- ・同種の専門学校が数多くある中、本校の特色の一つとして法人内の東京有明医療大学との連携がある。その連携を人材育成に活用していくことが重要である。
- ・「アドミッションポリシー」、「カリキュラムポリシー」、「ディプロマポリシー」を分かりやすく表記し、教育理念や目指すところをステイクホルダーに確実に伝えていくことを期待する。

◆【基準2】 学校運営

- ・第1期中期計画を作成し、課題抽出と優先順位付けを行い、目標達成に向け努力していることは評価される。今後は課題改善方策等を再確認し、検討を加え、第2期中期計画作成に期待したい。
- ・様々な年齢、職層の教職員が中期計画策定に参画し、多くの人が学校の課題等に対して共通認識を持つようしてほしい。
- ・日本鍼灸理療専門学校、日本柔道整復専門学校の運営は適正、円滑に実施されている。
- ・DX化という言葉に代表されるように、デジタル技術による利便性向上、効率化等に目を奪われがちだが、アナログ的な学生対応を引き続き、大切にしてほしい。

◆【基準3】 教育活動

- ・コロナ禍においても、教育効果や学生の心理的、身体的な影響を考慮し、十分な感染対策を行いながら、原則、対面授業を実施してきたことは評価できる。
- ・国家試験合格に向けた取り組みとして、在校生だけでなく既卒者に対しても、課外時間を利用して特別授業や補講を無償で行っていることは評価できる。
- ・(鍼灸) 一昨年度から開始した東京有明医療大学との教育活動の連携は定着してきた。教育の質の向上を図る上からも評価できる。連携の一つは東京有明医療大学附属鍼灸センターでの臨床実習である。実習の期間が昨年度は前期のみであったが、今年度は後期まで延長され、学生一人当たりの実習回数が増えたことは質の向上を図る上からも評価できる。しかし、さらに臨床実習の向上を図ることが望まれる。例えば、専門学校の教員が有明の鍼灸センターに出向いて直接指導に当たるなどである。この案は教員の視野を広げるとともに専門学校での授業にも反映できるものである。もう一つの連携は東京有明医療大学鍼灸学科教員を招いて、各教員の専門分野の講義を行っていることである。教育の成果は期間を要することから継続していくことが重要である。
- ・(鍼灸) 卒後の臨床技術向上支援として、斯界を代表する臨床家を講師として招聘し、臨床技術研修講座などを実施していることは評価できる。
- ・(柔整) 学生間の意識・学力のレベルの差が大きい。グループ学習等も取り入れ、教員を含め学生相互の助け合い意識の高揚を促すことを提案したい。

- ・(柔整) 開業現場や災害時の救急医療の中で利用・貢献できる、四肢・体幹損傷における応急処置法(病院へ搬送するまでの応急処置)など、AED やエコーなどを加えたカリキュラムの検討をして欲しい。
- ・(柔整) 災害時の救急医療の中で柔道整復師ができることを教育の中に取り込むことについては高く評価することができる。
- ・(柔整) 柔道整復師教育において、「伝統的な技術を積極的に継承していく」ことは大変重要なことで高く評価できる。さらに、それを担う講師陣がいることにも言及したら良いと思う。

◆【基準4】 学修成果

- ・附帯教育であるアスレティックトレーナー専攻科は日本鍼灸理療専門学校および日本柔道整復専門学校の特徴の一つであり、400名以上の修了生のうち約170名が日本スポーツ協会公認のアスレティックトレーナー(AT)資格を取得し、幅広く活躍している。このことは他の専門学校には見られない大きな実績であり、特色でもある。
- ・「卒業生の開業状況を把握し、本校ホームページにおいて紹介する」という試みは大変良い取り組みなので、実施できるよう検討を進めてほしい。
- ・(鍼灸) 2020年度は「はり師きゅう師」の国家試験合格率(新卒)が90%を下回り、全国平均以下となったが、2021年度は再び90%を越え、全国平均を上回った。これは前年度の結果を踏まえ対策が講じられた結果と評価できる。また、国家試験未受験者がほとんどいないことも評価できる。
- ・(柔整) 卒業生のほとんどが開業を目指し、学生時代から関連接骨院で修業をしていた時代とは一線を画し、柔整師業界の多様化により、すべての就職先が学修成果を発揮できる職場とは言えないのが実状である。同窓会や卒業生および私的研究会などとの連携により、福利厚生が整備され学修成果を発揮できる就職先の確保が必要だと思う。
- ・(柔整) 新卒者の国家試験対策の成果は、結果が少しずつ見え始めてきた。既卒者の国家試験対策は難しい中、学校との連携を閉ざすことなく、手厚い指導ができています。既卒者へのオンライン授業の実施についても高く評価したい。

◆【基準5】 学生支援

- ・心身の不調で学業を継続できなくなる学生が少なくない。しかし、心身の不調、生活面や人間関係での悩みやトラブルについては教員だけでは対応しきれないところが多々あり、解決には、この方面の専門家(臨床心理士)と協働で取り組む必要がある。専門家(臨床心理士)を配置した相談窓口の設置が望まれる。
- ・各学年の担任教員がきめ細かく学生対応している様子にいつも敬服している。しかしながら中途退学者が増加傾向にあることが残念である。日本柔道整復専門学校で学んだかつての自分を思い起こすと、仲間の存在が大きな救いであった。グループ学習の取り入れも一考かと思われる。
- ・成績優秀者への学費支援はメンバーが固定化され、幅広い学生の学習意欲向上にはつながっていないようなので、工夫の余地がある。
- ・卒業後の研修先や就職等のサポートを強化してほしい。

◆【基準6】 教育環境

- ・各教室の Wi-Fi 環境が整備され、オンライン授業ができる環境を担保していることは評価できる。
- ・日本鍼灸理療専門学校と日本柔道整復専門学校の教職員室が共用であり、両校教職員同士が協力しやすい環境にあり、様々な面で連携が図られている。
- ・ターミナル駅である渋谷駅から徒歩数分の閑静な場所で、通学の利便性も高く、校舎の建物も耐震・防火対策がなされていて、教室・実技室・柔道場等広さも十分あり、教育環境として申し分ないと感じている。「渋谷駅」近くにあるという好立地条件をより積極的にアピールしたら良いと考える。
- ・新型コロナウイルス感染症蔓延の中、感染防止対策として手指の消毒や教室内の細部にわたる消毒など、対面授業を可能とした教職員の努力は、非常に高く評価できる。
- ・付属臨床施設（鍼灸院）が入居するビルが築 40 年を超えることで、抜本的な見直しが進められていることは、教育環境の向上を図る面からも評価できる。また、増床に伴う施設設備、教育体制を再構築し、早期実現のために積極的な取り組みに期待したい。

◆【基準7】 学生の募集と受入れ

- ・学生確保に向けてホームページや学校案内、学校訪問、学校説明会など種々工夫して行われていることは評価できる。本校が選ばれる理由、他校が選ばれる理由をさらに分析したり、SNS で本校への興味を喚起したり、高校訪問にその高校卒業の在校生と一緒に試してみたりするなど、様々な手を尽くして、今後も学生確保に尽力してほしい。

◆【基準8】 財務

- ・予算編成から決算、財務状況の公表まで適正になされている。
- ・無借金経営が行われていることは非常に評価できる。
- ・学生数の減少に対する具体的なアプローチが必要である。大変難しい問題ではあるが、専門委員会を立ち上げたり、定員を充足している競合校の取り組みなどを研究したり、様々な観点から知恵を絞り、学生数増につなげてほしい。

◆【基準9】 法令等の遵守

- ・各種法令・規則・規定の遵守が適正になされている。
- ・学校教育法、専修学校設置基準等の規則遵守はもとより、個人情報保護の整備、新型コロナウイルス感染症に伴う対応もコンプライアンスに則って適正になされている。

◆【基準10】 社会貢献・地域貢献

- ・地元桜丘町でのイベントに参加し、地域の一員として活動されていることは素晴らしいと思う。今後とも社会貢献、地域貢献の活動に注力していただきたい。
- ・地域貢献の一環として地域住民の健康の保持、増進を目的とした案が検討されているが、同法人内の東京有明医療大学の協力を得ることで、企画運営が容易となると思われる。

◆ 総 評

- ・教育理念に則った人材を斯界に多く輩出してきたことは評価できる。今後は「アドミッションポリシー」、「カリキュラムポリシー」、「ディプロマポリシー」を分かりやすく表記し、教育理念や目指すところをステイクホルダーに確実に伝えていくことを期待する。
- ・法人内の東京有明医療大学との連携を人材育成、教育活動により一層生かしていくことを期待する。
- ・コロナ渦においても、感染対策を十分に行い、対面授業を実施してきたこと、各教室のWi-Fi整備などオンライン授業ができる環境を担保したことは評価できる。
- ・中期計画を作成し、目標達成に向け努力しているが、卒業後の研修先や就職等のサポートの強化を行ってほしい。
- ・入学先として選ばれる学校になるべく、教職員一丸となり、知恵を出し合い、引き続き学生確保に尽力してほしい。

以上